

やり直しのできる社会を！

2024.3.10

新宿連絡会NEWS

VOL. 89

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.03-6826-7802 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

雑記 ～ 冬を越して

笠井 和明

元旦夕方の能登半島地震の際、東京も少しは揺れたが、新宿の中央公園では、越年越冬の「炊出し」を待つ列が出来始めた頃。

瞬時ただならぬ空気となり、本部ではインターネットニュースが大音量で流れ、即座に「津波」の警報が鳴り、東北のかつての地震を想起させ、けれど、どうすることもなく、心配そうに、そのニュースに耳を傾け、大きな災害にならぬよう、とにかく祈り続けた。

被災者を思う気持ちは、自らも天災ではなく、社会経済的な理由ではあるが、突然、仕事を奪われたり、家族が壊れたり、住み処を奪われたりして、今の生活に至ってしまった過去を持つ身にとっては、他人事ではない。通じ合うものがあるのだろう、その願いは、共に生き、共に踏ん張り、諦めずに頑張ろうと、その場に集まった200名近い仲間の瞳は、皆、そう語っていた。

私たちは、すぐさま現地に駆けつけることも、また、現地でのボランティアがすぐ出来る訳ではなく、東京の各地に設置された募金箱に、なけなしのお金を入れることしか出来ないが、「復興」と云うか、「再起」と云うか、そんなことへの思いは、そこに自分を投影しながら、己や、その地の「不幸」への怨嗟までも募らせたりするのである。

ありきたりな言葉ではあるが、心よりお見舞いし、一日でも早い被災者による被災者のための「復興」を願う。

2024年はこうして幕を開けた。

前年、2023年は「コロナ渦」もほぼ終わり、今思えば、とても不可思議であった様々な「規制」「制限」も終了、その対価としての「恩恵」（給付金等）も、終わったものの、これは、一度やったら止められないのか、今度は「物価高対策給付金」に変わって、何だかんだ助

かっている内、都市の「インバウンド」も復活し、サービス業を中心とする経済は、嘘のように復活した年でもある。

新宿の街も「コロナ渦」前の雰囲気に戻り、小田急本店の解体に伴う西口の再開発も開始され、歌舞伎町に大きなビルが開業したりと、まあ、工事だらけの一年であった。建設労働者に仕事が多く出るのは良いことではあるが、都市の改造と云うのは大掛かりになるだけ、その影響もまた大きい。

理不尽な「追い立て」や、「居場所」が狭まったりすることは、都市の側からすれば、さほど大きなことではないのであろうが、そこでの暮らしを続けている人々に



とってみれば、それはそれで大きな出来事でもある。

人の移動の「規制」がなくなったことにより、地方から東京への人の移動も再開された、もちろん恵まれた人々だけが「移動」する訳ではない。食いつぶれた人々や、夢や希望をもって無一文で上京してくる若者も多くなり、それが上手くいけば良いのであるが、この世はそんなに甘くもない。失敗して奈落の底なんて者も当然ながら出て来る。家出少年や少女も多くいる。それぞれ、かつて居た「場所」に窮屈さを感じたり、その「場所」がなくなったりしたり、単純に失業したりと、様々な「不幸」の循環の中、東京を選ぶ者も多い。

「コロナ渦」後の東京は、再びこのような人々を受け入れる都市となり、中には居場所がほとんどなくなり、役所に駆け込んだり、炊出し並んだり、そんな人々の列が、決して減りはしない。ま、元通りになっただけである。

その中でも巡り合わせの悪い者は、「犯罪」や「事件」に巻き込まれたり、路上生活を余儀なくされたりする。

みんなコロナのおかげで忘れかけていた問題が、再び浮かび上がった年でもあった。

.....

昨年の秋頃、新宿区の相談所「とまりぎ」からの紹介で、とある場所から「災害用備蓄食料セット」をもらえることとなった。そろそろ賞味期限が切れる前の家庭用の防災品で、箱の中には、簡易トイレや、水、アルファ米、ビスケットと、一式がそろったものである。どのくらい欲しいかと問われ、1000箱ぐらいなら大丈夫だろうと、即座にもらい受ける約束を交わした。

連絡会が借りている倉庫には、これまで不用品が山となっていた。それはまずいと、仲間に「片づけ仕事」を出し、一気に呵成に片づけたのが昨年の初め。

「仲間の仕事作り」が団体の「使命」でもあると考

えている私たちは、何でも「仕事」にしてしまう。正確に云えば「ボランティア仕事」で、報酬もたいして出るものではないが、それを「仕事」と私たちは昔から呼んでいる。

「仲間のために」と云う「仕事」は、やりがいがあるようで、そういう「仕事」を企画すると、率先して動いてくれるのが、連絡会のスタッフ。何かをやれば、わんさ、わんさと集まり、俺にやらせろ、あーだこーだと、これは伝統なのかどうなのか、昔から変わらない。

そんなこんなで、倉庫は空いていた。が、この倉庫は、とある建物の地下空間。狭いピットの点検口から搬入搬出させなければならぬ。トラック載せて、フォークリフトとパレットで「よいしょ」とはいかない。すべて人力、手渡し作業。

この「防災品」をもらい受けるためにレンタカーを借り、現場に行く部隊と、それを待ち受けて、運搬する部隊、ピットに入る部隊、10人程の体制で2回転の一日仕事。「ひー、ひー、ぜいぜい」云いながら、無事に倉庫に納めることが出来た。

これらの備蓄品、賞味期限が2024年の4月。何に使うかと云うと、箱の中身を出し、レジ袋にアルファ米やビスケットを入れ、年末年始の炊出しに集まった仲間への「おみやげ」（補助食）として提供し、残った水はNPOの一時宿泊事業等の食事提供や、連絡会のおにぎり作りの際、お米を炊くときに使用しよう、残った簡易トイレは賞味期限がないので、いざと云う時のために備蓄用にとっておこうと、そんな思惑であった。

が、これもまた大変な作業。何せ箱数が多い。地下倉庫から事務所に上げ、そこで仕分け作業。水は階段上って2階の厨房まで運び入れる必要がある。それもまた手分けをしながら仲間が「えっさら、えっさら」。

計画通り、この年末年始におみやげを900袋程作り、すべて完売。越年明けて、水だけの箱100箱弱が調理場に残っていたが、これも2月中になくなった。

米をこれで炊くと、「あれ、お米変えたの？」などと利用者さんからは反響があるぐらい、美味しく炊ける。まあ、この冬のプロジェクト、万万歳であった。



何をするのも計画を出し、おぜん立てさえすれば、仲間が率先してやってくれる。私たちが目指していた「仕事作り」は、結局はこういうものだったのだと、今になって、しみじみ実感をしている。

農業もまた同じ、お金をかせぐどころか、持ち出しの方が多いが、その分、楽しい。そして、仲間の強いつながりが出来る。

色々な経験や特技を持つ仲間が、その能力を惜しみなく出してくれるので、それを段取りし、そして、ひとつにまとめていくことだけが支援者の仕事である。

年が明け、2月の南岸低気圧の関係で、東京にも雪が降り、久しぶりの積雪となり、ようやく冬らしくなったが、雪の前には「ホカロン大作戦」。

ありったけのホカロン（携帯コンロ）を都庁の前で3,000枚以上山積みにして、とにかく「暖まれ!」。もちろんパトロールでも大量投下をして乗り切った。

毛布は年末までが需要のピークで、だいたい必要な仲間には行き届いた。浅草の「ひとさじの会」の和尚さん達も年末に寝袋を配ってくれたこともあり、年が明けてからは新規の仲間、風雪で汚れたのを取り換える、東京マラソンの移動で捨ててしまったのを補充するなど、その程度。

この冬、トータルで600枚は配っただろうか、9月から配布を開始し、毛布があるよとの宣伝もかね、深夜のパトロールでは毛布を台車に乗せ、とにかく回って告知もして来た。そんなデモンストレーションのような行動が仲間に安心感を与える。

防寒着類も箱数で云えば700箱は優に越え、集まり次第の放出を繰り返した。年末年始は7日間連続提供なので、いつものことながら、物資の協力は本当に助かった。年が明けて能登半島地震の影響で寄付品は減るかと思われたが、被災地の方は受け入れ体制がまだ整っていないようで、引き続きこちらにも送られた。何だか申し訳ない気持ちである。

炊出し用、おにぎり用のお米も長野の山谷農場や、越後「いろりん村」などから、その他の食品も含めて多く届けられ、倉庫は再びいっぱいになった。

衣類や物資の場合、それを迅速かつ適切に配ろうとすれば、「仕分け」の体制がどこまであるか、提供の機会がどれだけあるかなのであるが、仕分け作業と云うのは、実際は難しい人力作業である。それを役所が受けるとなると、一品、一品、検品し、記載し、どこに送られたかも記しておかねばならない。何ごとも厳密にしなければならぬのがお役所の仕事。それに比べて私たちは、スタッフが率先して仕分けをしてくれるし、長年の勘で需要供給の調整も簡単に出来る。また必要なところに必要なものを大量に「どん」と出すことも出来る。

配り方はちと乱雑ではあるが、その「争奪戦」の方が、整然としているより「活気」があり、そして頼もしい。

この場を借り支援して下さった方々に感謝である。

移動層が多い新宿では、昨年からの既存の寝場所への「圧力」が、再開発などの影響で強くなったことで、その部分の「苦労」が続いた。

多くの仲間が就く都市雑業も気まぐれなもので、こちらも労働分野における「規制」も強くなり、浮いたり、沈んだり、ま、これはいつものことであるが、安定はしていない。

それでも現場で支援して下さる方々はまだまだ

多くいるもので、民間や教会の炊出しや食料配布やら、夜な夜な巡回して食料を枕元に置いてくれる団体や、時にはお金を配ってくれる個人も居り、食べ物などは何とかはなっている。

一部の「炊出し」は路上の仲間限定したものではなく、（主に生活保護世帯であると思われるが）路上にはまるで縁がない人々も多く並ぶ。世は物価高なので一食でも浮かそうとするのは当然であり、まあ、主催者がそれを容認しているのであれば、それはそれで、見せ物にしたり、政治に利用したりしなければ、良いのであるが…。

が、「炊出し」とは、今回の震災の避難所のように、寒い時には暖かいものを現場で火をつけ、提供するのが基本である。

民間の場合は様々な配慮が行き届いて、とにかく「温かい」。そして勇気ももらえる。それがこの国の伝統的な「炊出し」の姿である。

年末年始は、そういう「炊出し」の原点回帰。年末に向け早い段階から企画の練り直しをし、また、新宿区の公園課や福祉課との「調整」をし緩やかな「理解」を得、そして、暖かい丼飯を路上の皆々に提供することが出来た。

寒い公園に並ばせるのだから、ホカロンを一人ひとりに配り、待っている間、少し我慢してもらい、その代わり暖かいもの食べてもらい、そして寝床に帰ってからも夜食になるような「おみやげ」を出すと、集まった人数も適正規模だったこともあり、とてもほんわかとした雰囲気炊出しになった。

大晦日には、「さすらい姉妹」の方々がいつもの路上劇で盛り上げてくれ、コマまわしの「コマタン」さん（その昔、親御さんと一緒にコマ回しを披露してくれた子供だった彼も、今は立派な芸人さんになった）も素晴らしいパフォーマンスをしてくれ、また、五十嵐正史&ソウルブラザーズの皆さんも恒例の激励ライブをしてくれた。

こちらにも感謝!



年末年始の相談会の方も盛況であった。私たちは「健康相談」を軸にし、風邪薬等の市販薬の提供、そしてボランティアの医師や看護師さんによる相談に特化する。

「宿」の相談にすると、もっと、わんさか来るのであろうが、年末年始を対象にした新宿区の「厳冬期宿泊」の告知は12月。入所も月末。これはもう終わっている。

年末年始は役所はお休みなので、緊急対応は救急車要請だとか、そんなものになってしまう。「コロナ」規制が解除されたので、ビジネスホテルやら漫画喫茶はインバウンド需要やイベントの復活もあり、どこも一杯。この時期に新宿で「宿」をすぐに探すのは、たとえお金を持っていたとしてもそれはどだい無理なお話し。それを、「開ける」「用意しろ」と云うのは、タメにするだけの要求。そんなことを言われても役所は困ってしまう。

ま、それでも年末年始だからこそ新宿に来てしまう人々もまた居る。

今回、特殊事情があった仲間で、人道の観点から、どうしても年明け福祉につなげるため宿泊が必要があった仲間2名をどこに泊めたかと云えば、事務所の一角に布団を引いて、食事を出すと、そんなインフォーマルな「宿」。

何せ、屋外は暖冬といえども寒い。そして、人の流れも冷たい。絶望的な気分になっても不思議はない。この程度なら私たちは自前の「資源」で対応出来る。なので、役所がお休みでもそう困ることはない。しっかりとした考えを持っている団体に、ちゃんと相談をすれば、

一時の「宿」なんてのはどうにでもなるものであり、それがまた、新宿の奥深さでもある。

薬の多くは「風邪薬」と「胃薬」。どこの家庭にもある「常備薬」である。風邪薬は「パブロン」ではなく、「ルル」。

これをオーバードーズにならぬよう、一日分9錠小袋に移し、それを渡す。もちろん渡すのは、長年、連絡会のボランティアを続けてきている有資格者の熟練スタッフ。薬の怖さを知っているから、欲しいからと、ほしいは渡せない。ここのさじ加減は経験がものを言う。毎日とか毎回顔を合わせ、それでも熱がひかなければ、「そりゃ、風邪ではないよ」「福祉に行く?」「病院で検査してもらおう?」と振って、次のステップを互いで探す。「割り切り」と「おせっかい」。

それを繰り返して、医療や治療につなげる。このさじ加減もまた、経験。

長いこと騙され続けて来たので「福祉を取る?」と言って、素直にそれに従う仲間は、そう居ない。

自身の経験や、色々と流布されている話から、生活保護がバラ色であると思っている人も居ない。管理されるのは仕方がないことながら、その分、好き勝手には生きられない。

自立支援センターもまた同じ。しかもこちらは「常雇」で「自立」と云う、これまで何度も「失敗」続きの人にとってはかなり高いハードルが待ち受けている。

「アパート自立」などは、夢のまた夢。それなりのキャリアを持っている仲間以外は、たいがい、てっとり早

2023-2024 越年期活動報告

	健康よろず相談会 新宿中央公園特設テント内14時30分より 16時前後	衣類提供 新宿中央公園特設会場	炊出し 食材加工調理は関ビル調理室 配食は新宿中央公園にて午後17時より
12月29日(金)	26名(血圧測定+市販薬提供)	60名(防寒着、毛布、ホカロンを重点的に提供)	麻婆丼 食数150食 実数96名 おみやげ(非常食)150個
12月30日(土)	13名(血圧測定+市販薬提供)	73名(防寒着、毛布、ホカロンを重点的に提供)	ラーメン 食数200食 実数173名 おみやげ(非常食)150個
12月31日(日)	18名(医療班対応 別報告参照のこと)	50名(防寒着、毛布、ホカロンを重点的に提供)	いろりん米とモツ煮込み 食数200食 実数115名 おみやげ(非常食)150個
1月1日(月)	21名(血圧測定+市販薬提供)	40名(防寒着、毛布、ホカロンを重点的に提供)	牛丼 食数200食 実数169名 おみやげ(非常食)150個
1月2日(火)	20名(血圧測定+市販薬提供)	51名(防寒着、毛布、ホカロンを重点的に提供)	海鮮親子丼 食数200食 実数125名 おみやげ(非常食)150個
1月3日(水)	28名(医療班対応 別報告参照のこと)	75名(防寒着、毛布、ホカロンを重点的に提供)	カレー丼 食数200食 実数175名 おみやげ(非常食)150個
計	延べ126名	延べ349名	食数1150食 実数延べ853名 平均142名 おみやげ延べ900個

く住み込みの仕事を探すこととなる。アパートワンルームで都内は7-8万が相場。山手線内や、駅近ならもつとする。都心で暮すには金がかかる。都心部でゲストハウスが流行るのにも、そんな理由がある。それに加え、物価の高騰。働いた額の半分が家賃やら水光熱費となれば、貯蓄にまわすお金もなく、生活保護世帯よりも厳しい生活を余儀なくされ、仕事が楽しいのならそれで良いが、そうでなく、その上、首を切られた。怪我した。病気になる、人間関係が嫌になった、などなどあれば、また同じ生活に逆戻り。

「自立」したと思われていた仲間が、ある日、コンクリートに段ボール引いて、「エヘヘ。また戻って来ちゃった。」と云う再会は、良くある話。

よほどしっかりとした人、「ホームレス」や「生活困窮者」と云われている人々の層の「エリート」しか上手くいかなくなってしまったようだ。

もちろん、ここも「宿」代わりににもなるので、ないよりはマシなのであるが、その「ゴール設定」が極めて役所的なのが玉に瑕である。

「就労自立」「自立の援助」。言葉は素晴らしいが、実態はかなりかけ離れている。

「久しぶりにネカフェ行ったけど、最近はおんなの人が多くなったね」とは、街探訪好きな、とある仲間の驚き。そう云えば、年末年始も新しめの女性が、男に紛れたり、アベックであったり、堂々と「おばちゃん風」吹かせたりしながら目立った存在としてあった。新宿は昔か

ら女性の数は、他地域に比べると多かったのであるが、何だかその勢いはここ数年で増しているなど云うのは実感としてあった。そうか「ネカフェ」あたりが供給源なのかなと、ちと調べてみたら、新宿の「ネカフェ」業界は、かつての「掃き溜まり」からのイメージチェンジを計り、女性客を受けれるのに躍起になっているようである。中には女性専用のネカフェまで出来ている。

路上だけでなく、その周辺も色々と変わっていく。

「宿無し」にも色々あって、できあがってしまった「ホームレス」なんて云う「固定観念」を逸脱してしまう、そんなパワーと云うものが、若い人々にはある。

歌舞伎町など、彼、彼女らの路上の居場所に屋根でもつけて、そのまま若者シェルターにしてしまえば良いのではと思うのであるが、まあ、そう云うことは商店街も役所もやらない。今は警察にお任せである。任された警察も困ったもので、小さな事柄でしょびびいて、説教するも、また同じと、何も進まない堂々巡りである。

東京都の「路上生活者対策」も30年もの年月をかけ、予算をかけ、専属社会福祉法人や天下り団体を作り、相談員だとかで人も多く使ってきたが、何だかんだとやっても「解決」には至っていない。次から次へと新たな問題が派生し、それが固定化され、それらに振り回されているようである。概数調査などで路上の人々が減って来ても「解決に向かってる」と決して表現はしない。それだけ自信がないと云うことなのであろう。

「解決」とは、そう云う人々の存在をまずは認め、そ

巡回

激励

その他

21時より深夜までコースは通年コース

毛布、お菓子(コアラのマーチ)提供
出会った仲間の数126名

越年連絡会チラシNO123号発行 200枚配布

「さすらい姉妹」による路上劇。
独楽パフォーマー「こまたん」による大道芸。
「五十嵐正史&ソウルブラザーズ」による
路上ライブ実施。

越年連絡会チラシNO124号発行 200枚配布配布
21時より 都庁下にて年越し蕎麦、みかん、お神酒など配布 72名
23時より 西口地下にて甘酒、メロンパンなど配布 80名

新宿福祉事務所作成リーフレット①150枚配付

毛布、非常食(クラッカー)提供
出会った仲間の数115名

越年連絡会チラシNO124-2号発行 200枚配布配布

新宿福祉事務所作成リーフレット②配付150枚配付

越年期新宿駅周辺で夜間路上で寝ていた仲間の数
平均120名

1月4日 福祉行動 対象者2名 保護決定

して彼、彼女らが絶望せず、何をしてでも、自分らしく生きていける社会になることである。硬直した「自立」を押し付ける発想はそろそろ止めにしてもよい頃だとは思いますが…。

………

その東京都の「第5次ホームレスの自立の支援に関する実施計画」が先日、発表された。

「ホームレス自立支援法」も時限立法で延長、延長を繰り返し、基本方針も似たようなものが、5年ごと「見直されて」来たが、これもそろそろ賞味期限になろうとしている。「生活困窮者自立支援法」との整理もついているので、よほどのことがない限り、再々延長はないだろうし、東京都の実施計画もおそらくこれが最後となるう。

この法律がどうであろうが、東京都の「路上生活者対策」は、各区のばらつきと生活実態の差が大きく（ある区は河川敷の仮小屋、ある区は繁華街の流動層、ある区はその人数が限りなくゼロに近いなど）それぞれの区の温度差、苦情、要望の差異と云うものは、とことん広がっている。

都区共同体制はもはや限界で、また、ブロックごとと云うのも、その範囲が広すぎ、自立支援センターが、その「迷惑施設」としての閉鎖性もあり、本当の意味での「センター（中心）」としては機能して来なかった。

なので、ここは、それぞれの区の福祉行政が「センター」（中心）となり、地域密着で、実態の把握であるとか、施策の実行ができるよう体制も変えていかないと、現状維持がこのまま永遠に続くことであろう。

他方、「管理行政」は、「再開発」だ「街造り」だ、「環境美化」とか、住宅地は住民の意向、繁華街は商店街の意向や苦情、要望を盾に、排除に向けた動きは活発になる。

道路法や公園法にのっとり、代執行など適法に実施すれば「強制排除」は可能と言うのが東京都の立場であり、現在も公園であるとか、道路であるとか、河川敷であるとか、仮小屋を作って暮している仲間は、その「圧力」との「神経戦」を常に強いられている。

「今のままで良い」とする人々を「自立の意思がない」と断罪し、放置し、もしくは追い立ててしまったら、これは元の本阿弥だ。

実施計画では当たり障りのないことばかり書いてあるが、新宿駅の西口地下広場に流れ続けてい「警告放送」にあるよう、不法なのですみやかに退去するよう、それこそ30年間、東京都と新宿警察署は言い続けている。そんな中に、都の腕章着けた巡回相談員が「困りごとはありませんか？」と来て、どちらを信用したら良いのやら。「役所なんて信用できんよ、今のままで結構毛だらけ、おせっかいはやめてもらいたい」となるのは、まあ仕方がない。

「アパート入れますよ」「女性も入れますよ」「自立

支援センターも個室にしますよ」と云われても、それにはあまり魅力を感じない。

説教してくるハローワークや相談所に行くより、求人誌やネットで探した方がよほど良いやと、そんな困窮した若い仲間も多い。

………

今年は連絡会30年と云うことで、自らの歩みと向き合ってみるか、古い資料や写真を倉庫から引っ張り出し、活動時に撮影したビデオテープを業者にデジタル化してもらったり、資料をスキャンしたりと、記録に残すことをやっている。

このNEWSとは別であるが、公式ホームページに「30周年特設サイト」なるものを作ってもらい、そこに古い資料やら写真をアップしながら、ちょっとした雑記を書いているので、機会があれば見てもらおうと、何かと参考になるかも知れない。

その歴史と云うか、経緯と云うか、そんなことも一応知っておいてもらいたい。その上で、色々と言ってもらいたいと云う、そんな気持ちである。

何事もそうであるが、「歴史を学ばない識ったかぶり」と云うのは、あまり宜しくはない。

「1994年2・17」4号街路強制排除から、ちょうど30年目となる。西新宿に進出したばかりの東京都庁による環境浄化を掲げた衝撃的で、乱暴なあの出来事から、色々なことが転がり始めた。いままで声をあげなかった人々が、怒りに声をあげた。「俺たちはゴミじゃない」と。

その後の「1996年1・24」の「動く歩道」建設を名目とした強制排除事件を含め、都庁は、かつてそれだけのことをやりたい放題、やりにやったのだから、それ相応の「報い」があつて当然である。

虐げられて来た人々の恨みと云うものは「末代まで崇めてやる」である。その怨嗟は、今もこの土地には残っている。

だから、東京都は、この法律があろうが、なかろうが、仕組みの変更を含め死ぬ気でこの問題と向き合い続けなければならない。呪いを少しでも溶くため、路上で亡くなった仲間の魂を少しでも鎮めるため。

私たちがまた同じである。有効な抵抗の手段を作れなかった。好きかってなことを言い続け、やり続け、おまけに火事まで出した。だから、私たちがまた同様に罪深い。

まあ、それが連絡会が長きにわたり、「坩堝」と云われた新宿の地で支援活動、当事者運動を、逃げずに続けて来られた原動力であったのであろう。

鎮魂の旅路はまだまだ続く……。

冬は越せた。そして、春である。

(了)

越冬期 巡回 おにパト報告

この越冬期、新宿駅だけは再開発工事の関係で居られる場所が転々と。数は減ったかと毎回思うのであるが、深夜のパトでの西口地下の人数は現状維持でそんなに減ってはいない。それぞれ工夫しながら寝場所を見つけている。相変わらずと言えば相変わらずで、そんな中、新しめの仲間もチラリホラリと云うのも、いつものことか。

戸山公園付近では、この冬、ベテランの仲間二人が、入院したり施設に入ったりと、それぞれ病気、高齢を理由に生活保護を取った。二人ともその場所では「おなじみの顔」。「歳には勝てないよな」と、私たちに助けを呼んでくれたおかげで命を取り留めた。そんな出会いがあるのもパトロール。定期的に回ることはとても大事です。

おにぎり巡回パトロール 11-2月越冬期実績

		都庁	西	公園周辺	東	小計		周辺部	戸山地区	合計	
						(前年同月比)	(前年同月比)				
2023~ 2024	11月5日	33	20	22	24	99					
	11月12日	34	15	24	24	97					
	11月19日	25	22	42	17	106					
	11月26日	22	22	40	16	100					
	11月平均	29	20	32	20	101	(▲24)	11	5	117	(▲27)
	12月3日	48	17	20	24	109					
	12月10日	42	16	22	16	96					
	12月17日	42	27	28	25	122					
	12月24日	17	27	43	25	112					
	12月平均	37	22	28	23	110	(▲9)	11	4	125	(▲15)
	1月7日	50	26	27	19	122					
	1月14日	37	27	27	20	111					
	1月21日	40	21	23	34	118					
	1月28日	39	24	30	19	112					
	1月平均	42	25	27	23	116	(▲2)	10	4	130	(▲8)
	2月4日	47	24	23	25	119					
	2月11日	46	23	22	24	115					
	2月18日	40	21	22	31	114					
	2月25日	37	18	21	21	97					
	2月平均	43	22	22	25	111	(▲11)	10	5	126	(▲16)
										4ヶ月平均	125 (▲16)

深夜巡回（パトロール/軽食配布、毛布配布11月より2月 越冬期）活動で出会った仲間の数

日時	天候	4号街路	都庁下周辺	西口地下	西口地上	東(御苑含)	大ガード周辺	新南口周辺	深夜計	
11/12-13深夜	曇	21	44	46	18	1	0	19	149	
11/26-27深夜	曇	23	38	48	14	1	0	23	147	
12/10-11深夜	晴	19	40	51	16	1	0	13	140	
12/24-25深夜	晴	24	42	45	15	1	0	16	143	
12/28-29深夜	晴	17	40	38	16	1	5	15	132	
1/2-3深夜	曇	14	38	38	15	1	5	10	121	
1/14-15深夜	晴	19	42	39	17	1	6	15	139	
1/28-29深夜	晴	19	40	44	17	1	6	15	142	
2/11-12深夜	小雨	21	40	48	17	1	10	9	146	
2/25-26深夜	小雨	20	42	43	14	2	11	15	147	
									平均	141名 前年比+2名

今年度越年期活動中、医療班として以下の活動を行った。
参加ボランティアは8名、医師4、歯科医師2、薬剤師1、一般1名であった。

12月31日（日）

* 中央公園机だし相談 16:00-18:00

参加者：4名 医師2名、歯科医師1名、一般1名
対応者：18名、血圧測定5名、薬15名、診察・紹介状0名
薬内容：風邪薬11、胃薬5、湿布1、軟膏2など

* 21時からの蕎麦（都庁下）+23時からの甘酒（西口地下ロータリー）

参加者：1名 歯科医師1名
対応者6名 薬6名 風邪薬6、軟膏1 診察・紹介状0名
相談のみ1名 60代 歯科受診希望 受診に向けて改めて連絡することに

1月3日（水）

* 中央公園机だし相談 16:00-18:00

参加者：4名 医師2名、歯科医師1名、薬剤師1名
対応者：28名、血圧測定7名、薬27名、診察・紹介状1名
薬内容：風邪薬20、鎮痛剤5、胃薬・整腸剤7、湿布10、軟膏6、目薬4など
診察・紹介状：60代 倦怠感・甲状腺機能異常疑い 新宿以外の福祉から受診へ



医療班 大脇甲哉

新宿連絡会 会計報告

今期も多くの方々から寄付品、寄付金を頂きました。越年越冬の取り組みがあり一番支出が増える時期に、多くのお品、お金を頂き、大変助かりました。おにぎり作り、炊出しの食材購入、レンタル品、作業スタッフへのお礼などの越年越冬の事業、そして、仲間作りのために使わせて頂きました。拠点を作りながら日常活動をするのには、その維持費も必要です。理解して頂き大変助かります。今期はおかげさまで黒字となりました。その分は繰越しをして春の取り組みの資金にしていきたいと思っております。

男性もの衣類等の寄付は通年で募っています。中古で構いません。季節ものでお願いします。

これからもご支援、ご鞭撻、宜しくお願い致します。

2023年度 11月～2月新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		2 管理費	
1 寄付金収入	3,536,660	旅費交通費	12,000
計上収入合計	3,536,660	通信費	152,430
		消耗品費	46,566
II 計上支出の部		事務用品費	97,979
1 事業費		事務所費分担金	120,000
おにぎり/炊出し事業	135,997	衛生管理費	13,478
巡回活動費	151,499	支払手数料	117,192
農業支援事業費	141,071	車両費	29,705
越年越冬事業費	1,630,120	修繕費	83,980
その他活動事業費	181,727	計上支出合計	2,913,744
		計上収支差額	622,916
		前期収支差額	△107,502
		次期繰越金	515,414

●活動カンパ 振込は 郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

●郵便物、物資カンパの送付先は以下の住所にお願いします

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛てでお願いします。